



将棋で交流と健康づくり

塩竈の将棋愛好家が「ねんりんピック」出場!

およそ40年前から将棋好きな人が自然と集まり市内で活動を続けている将棋愛好会「どんぐり会」があります。現在は、20歳代から80歳代までのおおよそ50人の会員で、毎月4回ほど市内で練習会を行っています。

今年秋田県で行われる「ねんりんピック」将棋交流大会の宮城県代表として3人のうち2人が「どんぐり会」から選考会を勝ち抜いて出場します。そのうちのひとりで、どんぐり会会長川畑良一さんは「ねんりんピック」に初めて参加しますが、60歳以上の大会なのであまり差はないかと思



▲和気あいあいと、みんなで教え合いながら腕を磨いています。

ます。宮城県は将棋の活動が活発なほうだと思うので、県代表3人で楽しみながら頑張つてきます。」と意気込みました。



「将棋は脳の活性化にもなりますので、皆さんも始めてみませんか」と川畑さん

ねんりんピックとは?

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は、60歳以上の方々を中心として、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることができる健康と福祉の総合的な祭典です。今年の第30回大会は秋田県で開催されます。



問 市民安全課協働推進室
 ☎ 361-1773
 ☎ 361-1773
 ☎ 0801480610174

ねんりんピック秋田2017

シリーズ 日本遺産 「政宗が育んだ“伊達”な文化」と塩竈

忠義を貫く「文治燈籠」

芭蕉が当時見た鹽竈神社は、政宗が領内の安寧と神の加護を仰ぐために再建しました。また、三代綱宗が造営に着手し、四代綱村のとき寛文3年(1663年)に完成した「寛文の社殿」です。このころは本殿と拝殿が各一棟など、現在の「宝永の社殿」とは異なる様相でした。

芭蕉が訪れたときも、石の階段は高く積み上がり、社殿が朝日に輝き、義経への義を貫いた和泉三郎が500年前に寄進した「文治燈籠」がありました。



昭和33年には、対になるようさらに1基作られました。

文 治燈籠を寄進した和泉三郎とは、奥州藤原三代秀衡の三男忠衡のことで、初代清衡は長年続いた戦乱で亡くなった人々を弔い極楽浄土に導くために、岩手県平泉町の中尊寺(世界遺産)を建てました。平安時代の後期、東北の地に平和をもたらした奥州藤原氏は、奥州一宮である鹽竈神社をあつく信仰していました。鹽竈神社学芸員の茂木裕樹さんは、「文治燈籠は多くの方から長年大切にされてきました。子どもたちには奥の細道にも登場し、名所となった文治燈籠を地元の誇りに思っています。」と話されました。

みちのくの地には輝く先人のまごころが遺されています。平和を願い、御霊を鎮める古人の思いに触れる旅に出かけてみませんか。
 【参考文献「新版おくのほそ道」、「多賀の国府・平泉・鹽竈神社」】



鹽竈神社学芸員 茂木裕樹さん

「文化の港シオモ」ホームページ
<http://shiomoto.jp/kodomo/edo-episode03>

問 生涯学習課学習支援係 ☎ 362-2556

防災行政無線で放送された内容を再確認したいときは、自動音声で放送内容を聞くことができます。 防災行政無線確認電話 ☎ 364-1260



エフエムベイエリア (FM78.1MHz) でも防災行政無線の内容や防災情報を放送していますので、災害時にはラジオを活用ください。

【塩竈市の人口】 H29.6.30現在
 住民基本台帳調べ (前月比)
 人口 54,926人 (-41人)
 男 26,243人 (-14人)
 女 28,683人 (-27人)
 世帯数 23,270戸 (+6戸)

